

# ATEM Newsletter

sept. 2008 NO.16

発行日 : 2008年9月1日  
 発行 : 映画英語教育学会事務局  
 住所 : 〒169-0075  
 東京都新宿区高田馬場  
 4-3-12アルク高田馬場4F  
 TEL : 03-3365-0182  
 FAX : 03-3360-6364  
 E-mail : office@atem.org  
 郵便振替 : 00820-3-1477

**ATEM** 映画英語教育学会 / The Association for Teaching English Through Movies

## 映画英語教育学会 第14回全国大会が開催されました。

### 大会テーマ

### 「映画英語」の諸相を探る

14th Annual Conference Theme:  
 Looking for different approaches to SCREEN ENGLISH  
 (June 21 2008, Soka University, Hachioji City)

日時 : 2008年6月21日 (土)  
 午前9時30分～午後7時00分  
 会場 : 創価大学 文系A棟3階  
 〒192-8577  
 東京都八王子市丹木町1-236  
 主催 : 映画英語教育学会 (ATEM)

英国エクセターを思わせる、なだらかな美しい丘をキャンパスとする創価大学(東京都八王子市)において、第14回大会を無事終了することができました。参加された皆様、および開催校関係者の皆様に深く感謝いたします。韓国から参加された姉妹学会STEMの皆様にも改めて感謝申し上げます。

今大会は「『映画英語』の諸相を探る」をテーマとしました。その基調講演として、石川慎一郎氏(神戸大学)が、'Cinema English as a Text Genre: A Corpus-Based Overview' (英語講演)というタイトルのもと、明快な語彙のコーパス分析とロジック、そしてユーモアを交えて、映画英語が口語と文語の中間に属する個別の語彙ジャンルとして分類できること、それが英語教育に有用なデータを提供することを述べられました。

研究発表においては、英語音声付日本アニメを使った文化・語彙学習、映画教材とCALLの親和性、映画を利用した偶発的語彙学習、多読を促進する映画教材活用、中学校英語教育における映画英語活用の実践報告など、多岐に渡る研究が発表され、活発な議論がなされました。また、新田晴彦氏によるCALL室を使ったワークショップ「映画を用いたシャドーイング」においては、実際の教材体験をしていただけたと思います。

本学会は、今後も理論と実践を両輪として、映画をより身近な教材、効果的な教材とするため研究を続けたいと思

います。そのためには英語学力に差がある教室間の横断的研究、そして特定クラスにおける映画英語活用の効果を測る断続的研究の両軸が必要です。また(疑似)口語英語である映画英語には文化に依存した成句や不透明な表現が多数含まれる場合がありますが、こうした語彙を利用するプラス面とマイナス面も研究する余地があります。

こうした観点から、会員の皆様の研究とご支援を今後とも期待いたします。

会長 磐崎 弘貞 (筑波大学)  
 IWASAKI Hirosada



## 鈴木博氏に名誉会長を、鈴木雅夫氏に名誉理事の称号を授与しました。

### □ 授称に際して

名誉会長 鈴木 博 (ATEM初代会長)  
SUZUKI Hiroshi  
東京大学名誉教授

第14回大会の会場が創価大学に決まった時から、同じ八王子市に住んでいる私は体調さえ良ければ大会に出席して会員とSTEMの皆さんにお会いしたいと思っていました。大会直前、通算3か月半の入院生活を強いられたのでなかなか体調に自信がもてず、出席の決心ができたのは参加申込締切日ぎりぎりでした。当日は体調がすこぶる良かったのは幸いでした。久しぶりに皆さんにお会いできるというので気が張っていたのでしょう。

今回の大会は内容も運営も目を見張るばかりでした。プログラムの目玉である石川慎一郎氏の講演はそれだけでも大会参加の意義がありました。これからもこのレベルの講演を確保することを望みます。しかし折角英語で講演して頂いたのにSTEM会員の顔が殆ど見られなかったのは少々残念でした。研究発表も実践報告も内容とプレゼンテーション両面でますます充実向上しているのと運営が極めてスムーズになされているのを目の当たりにして、ATEMが着実に



発展していることを実感致しました。会員の皆様の教育と研究に対する真摯な態度があらわれたものであると同時に会長はじめ理事と事務局の皆さんのご配慮とご努力の賜物であると存じます。

はからずも総会の席で名誉会長の賞状を頂戴したのは身に余る光栄でした。10年間初代会長を務めさせて頂いた私としましては、ATEMが今までの路線に沿うだけでなく新しい視点で活動の範囲を広げていっそう日本の英語教育に貢献することを心より願うばかりです。

### □ 第14回大会に参加して

名誉理事 鈴木 雅夫 (ATEM初代事務局長)  
SUZUKI Masao  
(株)フォーイン代表取締役

この度、第14回大会にて名誉理事の称号を拝命しましたスクリーンプレイの鈴木雅夫です。「初代事務局長として本学会の発展に」貢献したものとしてのことだそうですが大変光栄なことと感激しております。と同時に、私を継いで、二代目、三代目と事務局長ポストをボランティアで引き受け、立派にその任を果たしてくれた歴代の当社職員の皆を代表してのことだと受け止めております。

ATEMは平成7年3月18日に創立されましたが、それは、当社が名作映画英語シナリオ＝スクリーンプレイシリーズ愛読者カード(教員)の皆様と呼びかけて開催した「映画英語教育シンポジウム」の一年後のことでした。

このATEM誕生の背景には、日本の若き青年たちの外国語学習意欲とその効果、さらには公教育授業をさらに実効的で実会話学習にふさわしいものに改革していきたいとの民間出版社と現場で活躍される教育者の皆様相互の熱い情熱がありました。



それからはやくも13年たち、世界は21世紀を迎えました。21世紀の世界と日本の役割。国際言語たる英語コミュニケーション能力の向上を抜きにして我が国の発展はありません。最近では、この英語学習に映画のみならずあらゆる現代メディアを教育・研究素材として見直そうとする動きが強くなってきています、当然のことです。高尚な英語文学から学ばかつての英語教育の氾濫の一方で、これまでどちらかと言えば、教育界周辺にて、比較的避けられがちでもあった映画などメディア素材による実践的、現代的教育・研究の指向が、今後、ますます重要視されていくであろうことを固く信じております。

会員先生方のますますのご活躍とATEMの発展を祈念して。

## ■ 第14回大会を振り返って

大会運営委員長 岡崎 弘信 (環太平洋大学)  
OKAZAKI Hironobu

去る6月21日、東京・八王子の創価大学において映画英語教育学会第14回全国大会が開催されました。残念ながら雨天での開催となりましたが、120名を超える会員・非会員の方々のご参加をいただき、なんとか無事に終えることができました。本当にありがとうございました。また多くの方々から「とてもいい大会だったよ」「創価大は素晴らしい大学ですね」とお声をかけていただき、ホッとすると同時に創価大OBとしてとても誇らしく感じております。

今大会はCALL教室でのワークショップ「映画を用いたシャドーイング」からスタートしました。今回は、講師に専修大学の新田晴彦先生をお迎えし、映画というシャドーイングには困難な教材を、ITを活用して効果的に料理する方法をご説明いただきました。朝イチにもかかわらず、37名の方々ハンズオンで楽しそうに受講されていました。

開会行事ではATEMの磐崎弘貞会長、STEMのLEE Ja Won会長、会場校の山崎純一文学部長からいすれ劣らぬ楽しいご挨拶をいただき、和やかな開会となりました。さらにSTEMのChongwon Park先生の研究発表に引き続いて行われた総会では、初代会長としてATEMを牽引されてきた鈴木博先生に名誉会長、初代事務局長としてATEMを支えて下さった(株)フォーインの鈴木雅夫社長に名誉理事の称号が授与されました。鈴木先生、鈴木社長、これまで本当にありがとうございました。また、今後ともどうかよろしく願いいたします。

午後の特別講演では、神戸大学の石川慎一郎先生に「Cinema English as a Text Genre: A Corpus-based Overview (『映画英語』の諸相を探る：コーパス言語学からの視点)」というタイトルでご講演いただきました。タイトルだけ聞けば難解そうですが、とてもわかりやすい切り口でコーパスに関する知識のない私でもとても楽しく拝聴させていただきました(英語によるご講演だということを忘れて!)。再度のご登場を念願しております。



ユーモア溢れる石川慎一郎先生の基調講演

研究発表は4会場で15セッションが行われました(発表者のご都合で1セッションが直前にキャンセルとなりました。来年はぜひともご発表下さいね)。今回、特徴的だったのは、宮尾先生・サンチェス先生(創価中学校)、阿久津先生(文京区立第八中学校)と、中学校から二組のご発表をいただいたことです。義務教育課程ではなかなか映画を英語の授業に導入するのは難しいという先入観がありましたが、それを打ち消してくれるようなご発表だったと思います。平成23年度から小学校での外国語活動が本格的に始まりますが、近い将来、小学校の先生方が発表される光景もATEMで見られるようになるかもしれません。

大会を締めくくる懇親会は飲んでくつろいでしまったせいかあまり覚えていません…。でも55名の方々にご参加いただき大盛況でしたね。クリンガー先生の名司会も覚えてありますよ。晴天であれば13階キャフェテリアからの眺望をご堪能いただけたはずですが残念でした。また、いつの日か、素晴らしい夜景を楽しめるような大会を開催させていただければと思います。

最後になりましたが、今回お世話になった上に15万円の補助金をいただきました創価大学、および関係者の皆様、また、種々お手伝いをいただきました創価大の永浜雅章先生、橋本信一先生、熊田岐子先生、ならびに諸先生方、そして、力のない大会運営委員長を支えて下さった皆様心より御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。また来年も元気に集い会えることを楽しみにしております。



新田晴彦先生によるワークショップ



姉妹学会STEMのLee会長によるご挨拶

## 支部報告

### 東海支部

東海支部では、今年で11回目となる「東海映画英語フェスティバル」を、6月14日（土）、愛知淑徳大学星ヶ丘キャンパスを会場に開催しました。今回は、映画字幕翻訳家の太田直子氏をゲストに迎え、字幕翻訳の苦労話や、実際に太田氏が翻訳した映画のセリフを題材にしたワンポイント翻訳レッスンなど、大変興味深い講演会となりました。これに先立って上映された『スクール・オブ・ロック』も、太田氏の手による字幕で、約100名の参加者からは満足し

たという声が多く聞かれました。

その他、東海支部では隔月の会合を開き、秋には研究発表会を予定しています。詳細はホームページ等で案内しますので、皆様のご参加をお待ちしています。

東海支部長 亀山 太一(岐阜工業高等専門学校)  
KAMEYAMA Taichi

### 関西支部報告

関西支部は、今年支部大会5周年を迎えます。この節目の時に、「奈良」「コーパス」「中高」をキーワードに活動を進めております。「奈良」の心は、活動地域の奈良への拡大です。「コーパス」の心は文字通り、研究活動を深めていく上で英語台詞のデータベース化が不可欠と判断し、コーパス作成に力を入れるということ。「中高」は、中高の英語の先生を活動に巻き込んでいくということです。以下は、特にお知らせしたい重点項目です。

1. 今年の支部大会は、10月18日（土）、京都ノートルダム女子大学にて開催します。例年通り、1本の映画（今年は出版100周年を迎える『赤毛のアン』）を様々な角度から分析するシンポジウムを開催します。支部大会5周年記念の行事として鈴木名誉会長にご講演を頂く予定。他支部からの参加も歓迎です。

2. 映画1000本の英語字幕をKWIC形式で検索できるコーパス「ATEM関西支部映画英語字幕コーパス」（支部限定）を作成中。作成方法について、来年の全国大会で講習会を開く予定です。
3. 関西支部有志で作った『暗唱したい、映画の英語』（金星堂）が好評発売中。これは『音読したい、映画の英語』（スクリーンプレイ）の続編で、17名の関西支部会員が執筆に参加しました。

他支部、STEMとの交流も盛んに進めております。今後とも、皆様のご支援をよろしくお願い致します。

関西支部長 藤枝 善之(京都外語大学・短期大学)  
FUJIE Yoshiyuki

### 九州支部より

- 1 これぞ「ユートピア」と言える支部大会  
ざっくばらんな九州支部大会には、いつも他地域の会員が参加されています。昨年度に続き、今年度も発表者のうち半数は支部以外の会員です。発表者は楽しく業績を稼ぎ、聴衆は発表者の肩の力を抜いた斬新な発想に刺激を受けます。そして何よりも大会後の宴会でみんなで盛り上がるのです。九州支部会員と一度、酒を酌み交わせば必ず、また参加したくなります。支部に知人が全くいない方でも大歓迎します。例えば、文学、語学、教育系などの学会で不愉快な思いをされた方は、ATEM九州支部へどうぞ。ここは本当のユートピアです。

さて今度の九州支部大会は、支部設立10周年の記念大会となります。うしじまあおい氏によるジャズコンサートなどを企画しています。

日時：2008年9月6日（土）12:30受付開始  
場所：福岡医療短期大学（福岡市）

- 2 世界へ向けた「国際映画英語祭2010」  
高瀬副支部長を中心に、文字通り世界の映画の祭典を計画中です。すでに福岡市からの（あっと驚く）補助金も内定しており、映画関係者も呼んでの大掛かりなものになりそうです。実施は2010年10月9日～10日で、場所は未定です。今後少しずつ全貌を明らかにします。

- 3 年内に40冊を超える九州支部の出版物  
支部出版物を「支部が設立された後に支部会員の複数に関わった出版物」と定義した場合、これに該当するものはちょうど40冊あります。と言っても、やはり九州支部は開放的であり、多くの出版企画において他地域の会員にも声をかけるようにしています。多くの方が認知されているものもあります。

例えば、『映画英語教育論』の執筆者（他地域の会員も参加）は、ATEM本部事務局、九州支部、関西支部、東海支部、佐藤理事と塚越理事（関東支部と北海道支部設置準備のために）に合計100冊を寄贈しました。佐藤先生と塚越先生には1日も早い支部設立を期待しています（とプレッシャーをかけておきます）。また、大学の英語テキストでベストセラーになったものも、2冊あります。

まだまだ支部出版物は増え続けています（現在も、数冊が進行中）。支部のホームページで一部を紹介していますので、ぜひご覧ください。そして、みなさんも、ぜひご参加ください。

九州支部事務局長 八尋 春海(西南女学院大学)  
YAHIRO Harumi



## 委員会報告

### データベース作成委員会の活動報告

ATEM (映画英語教育学会) インターネット・ウェブサイトを更新しました。

サイトは次の4つのコーナーで構成してあります。

- ①映画英語教育学会の概略を日/英で紹介し、大会・紀要・小研究会などのニュース広報
- ②関連学会(国内/外)や賛助会員出版社にリンクし、情報交換ネットワーク
- ③英語教育・異文化・教養・映像・文学・談話・コミュニケーションの研究・実践向け最新映画の紹介
- ④アーカイブ

特に③については、全国ロードショーに先立つ約2ヶ月前の試写会で視聴し、選定した映画を、毎月初めにATEM本部のHPに3~4本、解説/紹介しています。

(<http://www.atem.org/>) 携帯電話のフルブラウザでも閲覧に出来ます。

塚田 三千代 (映画アナリスト)  
TSUKADA Michiyo

#### 【2005年以後、ATEMのHPで紹介/解説した映画】※五十音順 ※()内は映画制作年

##### <大学向き>

「アルフィー」Alfie (2005)  
「あの日の指輪を待つきみへ」Closing the Ring (2007)  
「いつか眠りにつく前に」Evening (2007)  
「エリザベス: ゴールデン・エイジ」  
Elizabeth: The Golden Age (2007)  
「宇宙戦争」War of the Worlds (2005)  
「カポーティ」Capote (2005)  
「近距離恋愛」Maid of Honor (2008)  
「クイーン」The Queen (2007)  
「グッド・シェパード」The Good Shepherd (2006)  
「敬愛なるベートーベン」Copying Beethoven (2006)  
「恋とスフレと娘とわたし」Because I Said So (2007)  
「告発のとき」In the Valley of Elah (2007)  
「ザ・インタープリター」The Interpreter (2005)  
「ザ・センチネル/ 陰謀の星条旗」The Sentinel (2006)  
「幸せの1ページ」Nim's Island (2008)  
「ジェイン・オースティンの読書会」  
The Jane Austen Book Club (2007)  
「シンデレラマン」Cinderella Man (2005)  
「チャーリー・ウィルソンズ・ウォー」  
Charlie Wilson's War (2007)  
「つくない」Atonement (2007)  
「ノーカントリー」No Country for Old Man (2007)  
「バンテージ・ポイント」Vantage Point (2008)  
「フィクサー」Michael Clayton (2007)  
「フリーダム・ライターズ」Freedom Writers (2007)  
「プラダを着た悪魔」The Devil Wears Prada (2006)

「マイティ・ハート/ 愛と絆」A Mighty Heart (2007)  
「マリー・アントワネット」Marie Antoinette (2006)  
「モディリアーニ/ 真実の愛」Modigliani (2005)  
「モナリザ・スマイル」Mona Lisa Smile (2003) DVD  
「レンブラントの夜警」Night Watching (2007)  
「ワールド・トレード・センター」World Trade Center (2006)

##### <児童向き>

「スターダスト」Stardust (2007)  
「スパイダーウィックの謎」  
The Spiderwick Chronicles (2007)  
「テラビシアにかけける橋」Bridge to Terabithia (2007)  
「マゴリウムおじさんの不思議なおもちゃ屋」  
Mr. Magorium's Wonder Emporium (2007)  
「ウォーター・ホース」  
The Water Horse: Legend of the Deep (2007)

##### <今夏~秋に公開、全国ロードショーの映画>

\*ATEMのサイトで順次に紹介/解説しています。

「イントゥ・ザ・ワイルド」Into the Wild (2007)  
「コッポラの胡蝶の夢」Youth Without Youth (2007)  
「コレラの時代」Love in the Time of Cholera (2007)  
「P.S. アイラヴユー」P.S. I Love You (2007)  
「American Teen」American Teen (2008)

## 著作権委員会報告

著作権委員会は学会の設立当初から活動をはじめ、21世紀を向かえるにあたって『映画英語教育の著作権ハンドブック』を刊行し、更にその改訂を行いました。

それから数年が立ち、大会の度にハンドブックの改訂が話題になりながら、実際の改訂に至らず今日をむかえています。ひとえに委員会のまともな役割である私の責任によるものですが、大会でアンケートを2度ほどお願いしたのですが、声として寄せられた数が少なく、学会の声を集約できなかったことが原因でもあります。

著作権に関する内容は、通信機器の進歩と共に変化していきますので、早急に改訂を出す必要があります。今回の大会で改めてハンドブックの改訂の必要性が問われ、体制を立て直

して取り組むということで報告させていただきます。

コンピュータをはじめとしたメディアの利用がすすみ、著作権への対応も複雑になっています。こうした状況に対して、「こうすればいい」という明確な基準を出すことが今後の課題の一つでもあります。とりわけ教育現場でのメディア化が急速に進行するに連れて、著作権の正しい使い方が焦眉の課題となっています。

新しい体制の中で、こうした課題に答えられるように、しっかりと資料作りをすすめることを基本に、早急な改訂を目指したいと思います。

瀧口 優 (白梅学園短期大学)  
TAKIGUCHI Masaru

## 国際交流委員会

国際交流委員会は、海外の姉妹学会との国際交流だけでなく、国内の他の学会との交流を推進することに関わります。

Committee for Internal & International Exchanges (Kokusai Kouryu linkai) promotes not only international exchanges with overseas academic societies but also the exchange with other

domestic academic organizations. Currently, one such sister association is The Society of Teaching English Through Media (STEM) in Korea, with which ATEM exchanges academic presentations.

秋好 礼子 (福岡大学)  
AKIYOSHI Reiko

## ■ 学会誌「映画英語教育研究」第14号原稿募集 ■

以下の要領で「紀要14号」の原稿を募集いたします。英語教育の中でも、特に映画などの映像資料を使ったリサーチに基づく「研究論文」、あるいはそうした現場での「教育実践報告」を対象とします。大学のみならず、小学校、中学校、高等学校等の現場においてユニークな実践やリサーチをされておられる方は、どうぞ奮ってご投稿ください。投稿規定の英文は、ATEMのWebサイト (<http://www.atem.org/>) に掲載していますので、ご参考になさってください。

紀要編集委員会

### ■ 投稿規定 ■

「研究論文」もしくは「教育実践報告」として応募下さい。採用基準は以下のとおりです。

#### 「研究論文」

1. テーマ・内容が有意義か
2. 論旨に一貫性があるか
3. オリジナリティが認められるか
4. 映画英語教育という視点に立っているか
5. 構成が適切か
6. 先行研究を充分踏まえているか
7. 論証が充分か

#### 「教育実践報告」

1. テーマ・内容が有意義か
2. 論旨に一貫性があるか
3. オリジナリティが認められるか
4. 映画英語教育という視点に立っているか
5. 構成が適切か
6. 教育方法の記述が具体的かつ適切か

注意: 「研究論文」とは異なり、「教育実践報告」は、映画を使った独創的な授業方法や教材開発についての報告・紹介等とし、必ずしも実証的・統計的・理論的な検証を要求しないものとします。

**【書 式】** 原稿はMicrosoftWordにより作成し、使用する書体は、和文の場合「明朝体」、英文の場合「Times New Roman」で、文字サイズは10.5ポイントとします。

用紙のサイズはA4版とし、上下左右25mmの余白を取り、1頁の行数を30行として13頁以内とします。これには注や文献書誌、写真、図表等も含まれます。

映画のシーンを写真として利用する場合には、執筆者本人が全責任を負うものとし、版權所有者と交渉し、正式な掲載許可を得たうえで行って下さい。

写真は、そのまま版下に使える良質の状態のものをWord文書に貼り付けて下さい。

注は原稿末尾にまとめて下さい。引用文が英語以外の外国語の場合には英訳または和訳を付けて下さい。引用文が英語の場合は不要です。

外国の人名、地名等の固有名詞、及び書名などは、初出箇所では原綴を使用して下さい。

その他の書式の詳細については、*Publication Manual of the American Psychological Association (APA)*の最新版を参照して下さい。医学書院から「APA論文作成マニュアル」として日本語訳も発行されています。

**【要 旨】** 要旨を200語程度の英文にまとめて添付して下さい。書式は上記と同様とします。本文が英文である場合も規定通り英文で要旨をつけて下さい。

**【提出方法】** 応募原稿は、添付ファイルとして学会事務局 (office@atem.org) まで電子メールで送信して下さい。送信後3日(土日祝日を除く)を過ぎても、学会事務局から受領確認のメールがない場合は、送信・受信トラブルが考

えられますので、学会事務局へ電子メールまたは電話にて確認をとって下さい。

**【締め切り】** 9月30日必着。

**【提出先】** 学会事務局。

**【諸注意】** 研究論文、教育実践報告は、応募時点で未発表であり、他所で掲載審査中でないものに限り、

ワープロ独自のファイル形式、及びFAXによる応募は一切受け付けません。また、応募原稿はお返ししませんので、コピーは必ず執筆者が保管しておいて下さい。

**【審 査】** 応募された原稿は、紀要編集委員会の審査を経て、掲載の可否が決定されます。ただし、必要に応じて、原稿に一部修正、応募区分の変更(研究論文から教育実践報告へ)を求めることがあります。

**【略 歴】** 応募原稿に、略歴を1部添付して下さい。

**【初校の校正】** 初校の校正は、執筆者にお願いしますが、誤植の訂正のみに限らせていただきます。内容に関する加筆訂正はご遠慮願います。

**【抜き刷り】** 執筆者用にお送りする抜き刷りは論文1件につき10部とさせていただきます。

**【著作権】** 学会誌に掲載された論文、報告等の著作権は学会に帰属することになります。

## 第13期 映画英語教育学会 2007年 決算報告書

(2007.1.1~12.31)

収入の部			支出の部		
前年度繰越		562,913	大会開催費	大会開催総費用・琉球大学	390,449
会員年会費	04年度分@3000* 1	3,000	紀要発行費	紀要作成・印刷費・送料	192,660
	05年度分@3000* 38	114,000	ニュースレター発行費	ニュースレター印刷費・送料	55,490
	06年度分@3000* 66	198,000	ホームページ維持費	プロバイダー基本料金他	49,844
	07年度分@3000* 236	708,000	研究活動費	支部活動助成	150,000
	08年度分@3000* 4	12,000	事務用品費	備品・封筒作成・資料代他	34,286
	12期06年度分不足@1000* 1	1,000	通信費	電話代・郵送料・切手代他	29,338
賛助会費	06年度分@10,000* 2	20,000	支部助成金	支部フェスティバル助成	150,000
	07年度分@10,000* 7	70,000	会議・遠隔地補助	理事会開催遠隔地旅費補助他	67,019
	08年度分@10,000* 0	0	租税公課		53
大会参加費	@2,000* 68	136,000	国際交流費	STEM他運営費用	77,000
大会懇親会費	@4,000* 40	160,000	雑費	振込料他	7,245
書籍売上	紀要・著作権・ハンドブック・教育論	131,000			
受取利息		217			
郵送料収入		0			
雑収入		8,567			
			小計		1,203,384
				中日信用金庫	0
				みずほ銀行	718,585
				郵便振替口座	168,136
				小口現金	34,592
				翌年度繰越金	921,313
合計		2,124,697	合計		2,124,697

※個人会員384名・賛助会員7社

2008年3月吉日上記の通り相違ありません。

会計監査 泉 日出人  
菊地 俊一

# ATEM第15回全国大会 発表者募集

開催は東京地区を予定しております。詳細はATEMホームページ(<http://www.atem.org/>)をご覧ください。

## 役員及び委員紹介

<p><b>名誉会長</b> 鈴木 博 (東京大学名誉教授)</p> <p><b>名譽理事</b> 鈴木 雅夫 ((株)フォーイン代表取締役)</p> <p><b>会長</b> 磐崎 弘貞 (筑波大学)</p> <p><b>副会長</b> 佐藤 弘明 (専修大学) 高瀬 文広 (福岡医療短期大学) 藤枝 善之 (京都外国語大学・短期大学)</p> <p><b>理事</b> 秋好 礼子 (福岡大学) 岡崎 弘信 (環太平洋大学) 角山 照彦 (広島国際大学) 亀山 太一 (岐阜工業高等専門学校) W. クリンガー (滋賀県立大学) 瀧口 優 (白梅学園短期大学) 塚越 博史 (北海道医療大学) 塚田 三千代 (映画アナリスト) 中島 千春 (福岡女学院大学) 新田 晴彦 (専修大学) 日野 克美 (宮城大学) 真下 富雄 (広真アド)</p>	<p><b>研究委員会</b> 磐崎 弘貞 (筑波大学) 佐藤 弘明 (専修大学) 兼本 円 (琉球大学)</p> <p><b>紀要編集委員会</b> 秋好 礼子 (福岡大学) 亀山 太一 (岐阜工業高等専門学校) 新田 晴彦 (専修大学) 日野 克美 (宮城大学)</p> <p><b>大会運営委員会</b> 岡崎 弘信 (環太平洋大学) 亀山 太一 (岐阜工業高等専門学校) 佐藤 弘明 (専修大学) 中島 千春 (福岡女学院大学) 藤枝 善之 (京都外国語大学・短期大学)</p> <p><b>賛助会員交流委員会</b> 高橋 ひとみ (広真アド)</p> <p><b>著作権問題専門委員会</b> 角山 照彦 (広島国際大学) 瀧口 優 (白梅学園短期大学) 塚越 博史 (北海道医療大学) 藤枝 善之 (京都外国語大学・短期大学) 朴 真理子 (立命館大学)</p>	<p><b>データベース作成委員会</b> 岡崎 弘信 (環太平洋大学) W. クリンガー (滋賀県立大学) 塚田 三千代 (映画アナリスト) 大月 敦子 (信州大学) チェンバレン暁子 (聖学院大学)</p> <p><b>国際交流委員会</b> 秋好 礼子 (福岡大学) 高瀬 文広 (福岡医療短期大学) 倉田 誠 (京都外国語大学) 鶴田 知嘉香 (西南女学院大学)</p> <p><b>会計監査</b> 泉 日出人 (京都市庁)</p> <p><b>支 部</b> 東海支部長 亀山 太一 (岐阜工業高等専門学校) 関西支部長 藤枝 善之 (京都外国語大学・短期大学) 九州支部長 中島 千春 (福岡女学院大学)</p> <p><b>事務局長</b> 真下 富雄 (広真アド)</p> <p><b>会 計</b> 盛 みえ子 (広真アド)</p>
---	--	--

## 入会案内

1. 本学会には学会の主旨、目的、会則に賛同する人及び会社・団体は誰でも入会できます。
2. 下記の入会申し込み用紙に記入の上、事務局まで FAX または郵送して下さい。E-mail でも結構です。
3. なお、賛助会員として入会ご希望の方は、事務局までご連絡下さい。
4. 送付先: 映画英語教育学会事務局

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-3-12アルク高田馬場4F (株)広真アド内  
TEL : 03-3365-0182 FAX : 03-3360-6364 E-mail : office@atem.org

(切り取り線)

### 映画英語教育学会入会申込用紙 (FAX 03-3360-6364)

私は、「映画英語教育学会」の会則を承諾し、を申し込みます。 年 月 日

氏名	(フリガナ)		
	〒		
自宅	住 所	〒	
	電 話	FAX	
	E-mail		
勤務先	学 校 名	学 校 名	
	会 社 名	部 署 名	
	住 所	〒	
	電 話	FAX	
郵送物送付	<input type="checkbox"/> 自宅優先 <input type="checkbox"/> 勤務先優先		